

じゃりみち

…仮設支援情報…



第31号 発行日 1996. 12.5

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

決国会体会のお知らせ

あつつという間に12月!!! 今年も後1ヶ月をきってしまいました。そこで次回のお知らせです。今回は、情報をキーワードに、私たちは何をしていくべきなのかを話し合っていきたいと思います（具体的な情報交換も含め）。また、前回少しだけ触れた移送サービスについて話し合います。

また、第4週が“クリスマス”のため、1週早めて18日に行いますので、間違えないように来て下さいね（その関係でじゃりみちも少しずれます）。そして！お楽しみ？の**忘年会**。場所は次回の全体会で決めます。

12月11日（水） 18:30～

「仮設」NGO事務局隣のプレハブ2階にて

全体会の報告

前回の全体会は、WAC（長寿社会文化協会）の町野さんの進行で行われました。まずはじめに「自己評価」ということで、「自分の関わっている団体を自分の目で評価する」という作業をしました。他団体との関わり、情報収集の状況、資金源など、6つの項目を各自で評価することによって見つめ直そうというものでした。発表することで、それぞれの団体の反省点、改善点をかいま見ることが出来たのではないのでしょうか。

そして次に、前回と引き続いて「自由にテーマを出してグループで話し合う」ということを行いました。2つのグループにわかれ、『具体的にこれからの活動をどうしていくのか』、『「仮設」NGOはどうあるべきか?』という2つのテーマが話し合われました。どちらにしても、「私たちに一番必要な情報は何か?」ということがキーワードになったと思います。活動をするためにも、「仮設」NGOがどうあるべきかということも、各団体の欲しい情報や考える情報がなくては動きません。被災地のためにどうするべきか、そしてそのためにどんな情報が欲しいのか?ではその情報をどう集め、伝えていくのか…?今回は「情報」という言葉をキーワードに考えていこうということが確認されました。

移送サービスコーディネートをファミリー神戸さんが！

「仮設」NGOの事業の一つである共同プロジェクトの中の「移送サービス」。仮設住宅にお住まいの方の入浴、買い物サービスを主に行うのですが、各団体がひろうニーズは広範囲。小さい団体が行っていることもあり、車・人・金・時間などの確保が大変。それを3団体が連携して行うことになったのです。あつちの地域はこの団体、こつちの地域は私たちの団体が、といった感じで行い、それらのコーディネートをファミリー神戸さんが担ってくれることになりました。…ここまで各団体が「共同」で取り組むのはこれが初めて。これこそまさに「共同プロジェクト」と、事務局では大喜び。しかし、ここで問題なのは、現在ボランティアの専従スタッフに対する助成はないこと（アルバイトスタッフにはかろうじて出しているところもある）。今回のような大きな災害に限らず、ボランティアは有償スタッフがいなければ継続は無理では?と考えている事務局。こんないい計画をつぶしたくない。…どうしよう?そこで、「このファミリーさんの行う『コーディネーター』に対して資金支援をし、このプロジェクトを支えていきますか?」と全体会に提案をしました。今回は時間がなかったために、次回全体会まで保留になりましたが、うまくみんなで助け合えたらいいなと思っています。

県外在住被災者への電話相談

兵庫県が12月2日より電話相談窓口を開設。県震災復興総合センターに待機しているカウンセラー、税理士、建築士ら50人が県内の災害復興住宅の情報や悩みごと、雇用問題、仮設住宅に関する問題に対応。

TEL 0120-78-4133 (フリーダイヤル) 10:00～17:00 (12/29～1/3は休み)

未使用

てれふあんかーど、く・だ・さ・い♡

< 仮設は今.. >

市外地編

最近神戸市外の仮設住宅へ行く機会があった。ふれあいセンターでにぎやかにおばちゃんたちと話をする。「最近どない？」という質問に、さつきまで笑顔だった顔が少し曇る。「うーん。ほちほちやね。」「ふーん？」いまいち反応が不思議。しかし、会話が進んでいくに連れ、少しずつこぼれ始めた言葉は、「パートに行ってるねんけど、自分が仮設に住んどるとは絶対言えへん。」「ひそひそ話が辛くて…。」「ああ春がまちどおしいわ。早く家を直して戻りたい。」と言った感じ。どうということやろう？と聞き直す。「もう2年もたつとねえ、ここの人にとっては“いつまで居るんや”ってことになるんよ。」…絶句。

この仮設住宅の建つ地域は、ほとんど被害はなく、あったとしても「お茶碗が割れた」程度。日増しに震災から遠のいていく。よく被災地外で「忘れられつつある」と言われるが、実はこの被災地内でも起こっているのではないだろうか。「仮設」＝「金がない、甘えている」という偏見から、現実には就職差別まで起きている。そんなことも含まれてか、ここの仮設住宅は他の仮設住宅よりも明るく、団結しているように見えた。それが功を奏して(?)「帰りたい。ここのが楽しい。」と言うおばあちゃん。

これから公営住宅への移動はどんどん増していく。そんなとき、このおばあちゃんたちのつぶやきをどうとらえたら良いのだろうか？ また、「帰りたい」というおばあちゃんの声はどうとらえたら？ 残る人にはおばあちゃんたちの声が、移動する人にはおばあちゃんの声がつかまとう。2年を過ぎて残り続ける仮設住宅に住む人たちのこころ。せつかくのコミュニティをまた壊して移る公営住宅。…どちらにも課題は数多く残されていることを感じた一日だった。

事務局 山田 光



出逢い・ふれあい・学びあい 第2回ボランティアセミナー (報告)

11月23日、24日に行われた第2回ボランティアセミナー。じゅりみちなどを通じて全国に発信し、15名の参加者がありました。1日目は、少しレクチャーをした後、2グループに分かれ、須磨区の高倉台仮設住宅と高砂市の米田仮設住宅のふれあいセンターで宿泊し、仮設住宅の方との交流会を兼ねて、いろいろな声を聞きました。2日目は午前中ボランティア活動をし、午後は全員が再び集まって「私たちに一体何ができるのだろうか？」ということを中心に話し合いをしました。2日間を通して一体何を感じたのでしょうか？少し声をひろってみました。

セミナーを通して若い方々と交流できて嬉しい。(65才女性)

訪問だけではわからない、光と陰がわかり、これからの自分の方向が見えた。(45才男性)

これからもこんな体験セミナーを実施して欲しい。地元に戻っても、この体験を生かしていきたい。(19才女性)

自分にできること…活動を通して少しわかったような気がする。(20才女性)

今まで「ボランティア」という言葉が重かった。視野、広がるといいなあ。(22才女性)

私の五感すべて使って考えた。それが嬉しかったし、楽しかった。(18才、女性)

想像上の仮設住宅、体験して住民の方と会って、皆さんが元気なのに驚いた。これが現実。体験しないとわからないこといっぱい。(20才女性)

大変でしょうが、セミナー続けて下さい。また参加します。(45才男性)

1泊2日と少しハードスケジュールでみんな最後はぐったりしていました。もう少しゆつくりできたら良かったですね(反省)。仮設住宅の方々には本当にお世話になりました。

衣食住 から 医職住

震災から1年10ヶ月、仮設住宅で不自由な生活を強いられていた方々も、平均で2割5分くらいの人が離れ、何らかの形で仮設住宅から出ていかれた。公営住宅が当たっていて手続き中の方もいるが、全てではない。しかもこれで問題解決ではなく、むしろこれから問題になってくる。自治会の会長さんが出ていったため、自治会活動がストップしてしまった仮設住宅。ふれあいセンター活動も同様で、そのような仮設住宅は何ヶ所もある。避難所から仮設住宅に移られたとき起きたように今度も、知り合ってようやく親しくなれたところに不慣れな住宅に行く不安や、「お隣さんが出て行った」「前の人が出ていく予定」と自分一人が取り残される不安・寂しさがある。お年寄りなら尚更のことである。住宅復興のためにはどうしても飛び越えなければならないハードルかも知れないが、あまりにも虚しい。9月20日頃だったか、孤独死が100人と報道されたが、逆算すると6日に1人が孤独死したことになる。日々、復興の過程に於いてさまざまな新しい問題が起きている事実を、マスコミは当然ながら我々ももっと地方へ発信していくことが必要に思うのである。

仮設住宅に移り住まれた頃は、「交通が不便」「周りに病院がない」「買い物する店がない」「住宅が狭い為プライバシーが守られない」と多くの困難があった。しかしかえっ

てその不自由な生活の中から住民同士の連帯感が強くなっていったのも事実である。それは全ての建物が平屋であるが故、前後、左右に声を掛け合う事が可能である故である。つまり、左右、前後がお互いに目で確認でき、次に一言の声がかけられる絆があったのである。それが募集が始まった公営住宅は殆どが高層住宅で、仮設住宅の平面から、上下の高層に変わるわけであるから、コミュニケーションは益々悪くなるを得ない。しかもドア一つでいわば密室である。今の仮設住宅ですら独居老人の方への心のケア、また一方では親を亡くした子たちへの精神的ケアが強調されているのであるから、これからはより必要になる事は明白である。高齢社会に突入しつつあるわが国にとっては、単に大震災復興だけの問題ではないのである。終身現役の仕事を持っている方は別にしても、年金生活者など家賃の問題と合わせて心の問題をどうするのか？

本日も、ある仮設住宅でお年寄りが夜遅くなるまで一人ベンチに腰掛けておられた。「家でテレビを見ていても退屈してしまうから」と……。震災直後の衣食住から、ここに至って「医職住」に変わってきているのは間違いのない事実である。

MEMORIAL95117

宮下玄覚

震災後もう2年が経とうとしているにも関わらず、被災地には現金給付としては34万円しか配られていない。国は被災者に「自助努力を！」というが、仕事をなくし、家をなくした被災者がどうして34万円で自立できるのだろうか？同時に、「個人の私有財産への補償は法律上できない。」と繰り返しているが、本来、法律の前に「ひと」が有るべきではないだろうか？

11月の30日より衆議院第1議員会館前での上野さんの座り込みに始め、いろいろな個人補償への動きがある中、小田実氏の公的補償を求めての市民立法を受けて、衆参の議員が「議員立法」として設立しようと、やっと動き始めている(11月30日現在参議院27名、衆議院42名)。

この小田実氏の提案は極めて原点的であり、当然の要求ではないだろうか。被災者の復興があってこそ、被災地全体の復興があるのである。たとえばあの600メートルにわたって倒壊した阪神高速路道路が開通し、元の交通量に戻っても、被災者の復興はない。根本的な生活が生産できなければ経済は成り立たないように思う。

今後も充分起こりうる災害のためにも、いま、阪神・淡路からの提案による「公的補償」の立法化が急務であると思っているのは私だけであろうか？

公的支援

「仮設」NGO代表 村井 雅清

お総菜ボランティア活動の取り組み

室谷第2 ボランティア保健婦 大川記代子

仮設住宅生活の健康問題

私の担当している神戸市西区の工業団地内の仮設住宅では、遠隔地の仮設住宅の抱えている問題が例外なくある。その中のひとつで、「命や健康を保つ上での日々の栄養が満たされていない人が多い」という点は、極めて深刻な問題の一つである。

独り暮らしをしているかなりの人たち、からだが不自由な人たち、アルコール耽溺中の人たち、自炊能力が身に付いていない人たち、食欲や生活意欲のない人たちなどにおいては、周囲に食堂やスーパーがないこと、トラ

ックで販売に来る八百屋を効率よく利用することに不慣れであるなど、数分の距離でいろいろ物を済ませていた環境からうまく転換できておらず、この仮設生活が健康状態を悪くしていつている。中には体重減少が甚だしい人さえみられる。

この実態は常に私から離れることがない問題であった。貧血や栄養不良、慢性病のある人、冷蔵庫がいつも空になっている人へ私の活動日になにがしかの弁当や食材料を運ぶのが常となり、炊飯器をしかける、簡単な料理を作る、麦茶を炊くなどが活動の一部となっていた。

個別にもっと

食生活の支援ができないか

私が「神戸友の会」のボランティア活動に出会えたことは幸いなことだった。「友の会」は震災直後から物資提供、バザー、炊き出し、ふれあい弁当など様々な活動を各地で続けてこられているチームであるが、「一歩進めて、個別に必要な人たちへのお総菜宅配の活動を手がけてもらえないか」と打診したところ、快諾を得た。そして現在、支援の活動が進められている。

経過

実施に先立って西区保健所の食品衛生課から、行政の指導を受ける。これらに参加した人たちに加え、現在十数名の人たちにとり、月に2回（今年9月開始）、3～4品のおふくろ料理をお好みで取れるように、というものの、また1パック50円程度で、夕食の支援を、といった様ないくつかの形で続けられている。

評価

「神戸友の会」で、サービス回数は長続きできる活動を目指して決められた。中心となるお2人名のほか、すぐ隣町や明石市のメンバーが調理、配達支援の輪に参加された。また、お総菜は日頃とかく欠けがちな野菜をメインにして、胡麻・海草・きのこ類・小魚などを使い、特にミネラル・ビタミンなどが接種できるように注意が払われている。そしてまた、単にお総菜を宅配するだけではなく、そこにはすぐに暖かな人間関係が生まれ、関心を寄せる励ましのところが添えて届けられる。

今後の課題

仮設住宅の人々を支援する行政も市民も、長引く仮設生活で急速に体力を落したり、病気をしやすくしている環境に注意を払い、臨時の軽食堂を設けるなどの対策を講ずることや、各人が生活や健康上のマイナス条件をいかに工夫し、食生活の自立をしていけるかへの啓蒙活動と共に、きめ細かな具体的な支援を行っていくことを重要なポイントにしていく必要がある。ホームヘルパーはこの厳しい現実問題に有効な個別支援的的制度として、その役割を果たしているが、このことで全てが事足りているのでは決してない。

私たちは仮設住宅での孤独な生と死、塞がれた精神状態に陥っている人々も、命を根本で支える食や栄養が極めて貧弱な状況が背後にあることを、基本的に理解しておく必要がある。

がしき
は走る

(全国キャラバン
日程表)

12/07	東京都	明星大学	シホ	(石井・浅野・田中)
12/14	広島県 芦品郡	チャリティコンサート	講演	(石井)
1/15	奈良県 大和郡山市		講演	(石井)
1/17.18	東京都 調布市		がしきパル	(石井)
1/19～31	神奈川	防災ギャザリング	がしきパル	
2/19	愛知県		講演	(石井)

この他にも1/17に向けて 各地いろいろ準備中!!



ふきちゃんのキャラバン日記

プロジェクト結ぶ 石井布紀子

3回目の1月17日をどう迎えようかな? その3

生を集めていきます。みなさま協力した方がおトクですよ!!

あっという間にもう師走。ここ数日、被災地でも寒い日が続いています。あちこちの仮設住宅で、隙間風が吹き込むを防ぐために、ビニールテープなどを貼り付ける作業も行いました。2年目を迎え、ガタつきのめだつ仮設住宅は少なくありません。秋ごろから、公営住宅・市営住宅へと転居をする流れが続いていますが、まだまだ全く見通しのない方もいらっしゃるようです。その一方で、春先の立ち退きや取り壊しの勧告を受けた住民の方の報告も聞きました。いよいよ統廃合が進んでいくのでしょうか?

住民の方々おひとりおひとりと話をさせて頂くと、やはり、先の見通しのある人となない人では、感じがちがつている印象を受けます。何となく、今後の展開が気になっていた矢先に、たまたま「防災フォーラムにむけて、生を集めたい」という話を聞きました。そこで、私の所属するグループ『プロジェクト結ぶ(ゆづ)』では、ここ1~2週、西宮市内の仮設住宅での個別訪問の機会を積極的に増やす努力をしてみました。定期訪問のボランティアさんだけではなく、社内研修や学校の授業の一環で被災地へ来て下さった方々にも「とにかく訪問をお手伝い下さい」と取り組んで頂いたのです。

事務所に帰ってきた方には、報告や記録をお願いしますが、最初のうちはご自分の感想や判断だけ残す方がほとんどでした。そこで、「できるだけそのままでの言葉で書き残すようにして下さい。あるいは、住民の方の話と皆さんの感想や観察した事柄を分けて残していただくと嬉しいですよ」とお願いするようにしたところ、率直な声がいづつも出てくるようになりました。

たとえば、「もう抽選(公営住宅募集などの)にはいかへん。何を書いたらええんかわからんし、どうせダメと言われる。がつかりするんのはうんざりや」など。住宅抽選方法や期限を知らないことがきっかけで、トラブルが生じることは少なくありません。最近では、生活支援アドバイザーという新たな相談員が設置され、丁寧な説明や指導をして下さることが増えたという話も聞いていますが、「それでも65歳以下の人は無視されるんや」という声もちらほら。

もちろん、不安や不満の声ばかりではありません。

「泣き言ばかり言うとしてもアカンやろし。頑張ってるんや」とか、「周りの人が親切で震災前より楽しく暮らしてます」「家が見つかって幸せ」などの喜びの声もあります。一体どんな声が多いのか、というのを判断することは難しいでしょう。

時々、被災地外から、「不満の声ばかりを集めることは被災者の甘えの気持ちを助長するので、よくない」との声が届きます。とはいえ、困難な状態に置かれている人の状態をただいたずらに放置しておくことで、改善にむかうものなのではないでしょうか?むしろ、悲惨な事件が続くことも考えられます。だとすれば、たとえ一時的に甘えの気持ちが助長されたとしても、前向きに解決策を探ってゆくための大切なプロセスとしてとらえる前提で、不満のひとつ一つを検討する機会があってもいいように私は思います。それは「生の声」カードが100枚を超えた頃から、ますますその実感が深まっています。

防災フォーラムでは、これらの「生の声」をできるだけ数多く集め、それらの内容を分類した上で検討し、みんなの手で作る復興計画案に反映させようとしているそうです。「生の声」カードを原点にシンポジウムや討論会の内容を決め、より具体的な形になるかも知れない訳です。幅広く様々な立場の声が集まれば集まるほど、公益性の高い提案が生まれる可能性が広がることになるでしょう。

全国からの参加も可能なはず。あなたの街に引っ越してきた、震災転居者の方に突撃インタビューして届けて下さってもいいし、テレビや新聞の抜粋報告だっていいように思います。被災地ならば、「私は震災の被害はそれほどなかった」と思っている人の率直な声も集まった方がいいでしょう。「道が狭い」とか「駅にエレベーターを」など、思う存分、自分の暮らす街への願いや夢をふくらませ、あるいは、不満を明らかにする中から、少しでも困難な状況に置かれている人々への選択肢が増えていったならば、儲けもんのはず。読んで下さったみなさまの積極的なご協力を期待しております。どうぞよろしくネ。ではまた次回に。



ボランティア募集!!

1月17~19日に行われる第2回市民とNGOの「防災」国際フォーラム。今事務局では企画、調整に大騒動。なのにお手伝いのボランティアさんがぜんぜんおられません!!だから、1人でいくつもの企画を持っている状態です。どなたか手伝って下さい!!! (交通費、昼食費支給、宿泊可能) 一日数時間でもOK! また同時に当日のボランティアも募集中です(昼食代支給、宿泊可能)。当日までは事務作業が中心、当日は走り回るのが中心。是非是非、我こそはと思われる方はご連絡を! お願いします!!!!

問い合わせは: 第2回市民とNGOの「防災」国際フォーラム事務局 細川まで。
(TEL) 078-578-6921 (FAX) 078-578-6923

さて、今年もいよいよ年末年始の活動期間になりました。各団体さんの活動予定を掲載いたします。ボランティアさんの必要なところもあるかと思います。問い合わせは「仮設」NGO事務局まで。

12/20 (金)	東灘区ア-ネットワーク協議会 (わかちあい・阪神 他)	1/4 (土)	兵庫区内仮設住宅三社参り (SVA)
12/21 (土)	15:00~16:30 子ども英会話教室&クリスマスパーティー (ファミリー神戸) 魚崎南第3仮設住宅他仮設より移住者の歓迎会 (わかちあい・阪神) 仮設住宅訪問/室谷第3仮設 (週末ボランティア) ひまわり食事会・子どもプロジェクト (SVA) 西代仮設かわら版配布 (SVA) クリスマス会/玉手予定 (姫路「こころのケア」ネットワーク) 戸別訪問/玉手 (姫路「こころのケア」ネットワーク)	1/6 (月)	仮設住宅←→医療機関送迎サービス/神崎郡 (わかちあい・阪神)
12/22 (日)	子ども文庫/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 若松もちつき大会 (SVA) 戸別訪問/玉手 (姫路「こころのケア」ネットワーク) 戸別訪問/新白浜 (姫路「こころのケア」ネットワーク)	1/8 (水)	喫茶「アバウト」/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 仮設住宅←→医療機関送迎サービス/中央区 (わかちあい・阪神)
12/24 (火)	移送サービス/須磨区 (ファミリー神戸) 戸別訪問/新白浜 (姫路「こころのケア」ネットワーク)	1/11 (土)	子ども文庫/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 設住宅訪問/西神南第1仮設住宅 (週末ボランティア)
12/25 (水)	喫茶「アバウト」/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 子ども文庫/新多聞ふれあいセンター (アバウト) クリスマス会/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 仮設住宅←→医療機関送迎サービス/中央区 (わかちあい・阪神) 移送サービス/西区→長田区 (ファミリー神戸) 東京のボランティアと戸別訪問 (姫路「こころのケア」ネットワーク~26まで)	1/14 (火)	喫茶「アバウト」/新多聞ふれあいセンター (アバウト)
12/26 (木)	仮設住宅←→医療機関送迎サービス/神崎郡 (わかちあい・阪神) 移送サービス/西区→須磨区 (ファミリー神戸)	1/16 (木)	仮設住宅←→医療機関送迎サービス/中央区 (わかちあい・阪神)
12/27 (金)	戸別訪問/御国野 (姫路「こころのケア」ネットワーク)	1/17 (金)	第2回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム
12/28 (土)	仮設住宅訪問/室谷第3仮設 (週末ボランティア) 子どもプロジェクト/西神第7 (SVA) 荒田仮設住宅常駐 (SVA ~1/4まで) 戸別訪問/新白浜 (姫路「こころのケア」ネットワーク)	1/18 (土)	子ども文庫/新多聞ふれあいセンター (アバウト) 仮設住宅訪問/西神南第2・3仮設 (週末ボランティア) 第2回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム
12/29 (日)	年越しそば予定 (姫路「こころのケア」ネットワーク)		
12/30 (月)	もちつき大会/南落合仮設 (ファミリー神戸) 戸別訪問/玉手 (姫路「こころのケア」ネットワーク) 戸別訪問/新白浜 (姫路「こころのケア」ネットワーク)		
12/31 (火)	移送サービス/須磨区 (ファミリー神戸)		

情報コーナー

ボランティア募集!

年末年始の仮設住宅訪問などのボランティアを募集します。宿泊OK! 長期滞在の方の生活費用については要相談。

問い合わせ: プロジェクト結ぶ

「よい年むかえ隊プロジェクト」檜垣(か)まで
住所: 〒662 西宮市芦原町1-20 TEL0798-64-5829

「猿まわしショー」行きます!

年末年始(今回は特にクリスマス)に猿まわしショーをご提供します。費用はご相談にのります。仮設住宅のお年寄りやお子さんにどうですか? お気軽に!!

問い合わせ: 岩切プロダクション TEL0995-73-2855
住所: 〒899-63 鹿児島県始良郡横川町上ノ2928



イベント情報

人形劇

12/26 (木) 「子どものつどい」

場所: 室谷第2仮設住宅ふれあいセンター 14:00~
人形劇「赤ずきん」、歌など

主催: 大阪樟蔭女子大学児童研究部



展示 12/5 (木) ~9 (月) やさしいから人なんです パート9

「震災と居住権」パネル展

・そごう神戸店新館7Fアート・ムード WEST (無料)

・加古川そごう本館7F 食堂街展示スペース (無料)

主催: やさしいから人なんです展兵庫県実行委員会

展覧会 & ライフ

12/20(金)~12/23(月)

加・ザ・バルoon 神戸 ~BABAのサカより~

※押し花絵の展覧会&LIVE※

場所: ホートアイランド/ザ・バックホール(入場無料)

時間: 12:00~18:00

問い合わせ: 03-3386-2029 (有)プレイワーク